

いい表情の子を育む

明日は運動会。ゴールデンウィーク明けから、学校の雰囲気は運動会バージョンになっています。そのような中、天気予報を見ては「雨」になるのではないかと心配していました。その度に、「大丈夫、雨は降らない」と自分に言い聞かせていました。

子どもたちにとって、運動会は大きな行事の1つです。特に、川崎小学校の6年生にとっては思い入れのある行事です。それは、「6年生が運動会を創る」からです。

4月7日、「今年の運動会を自分たちの手で創っていきますか」と、私から6年生へ投げかけました。5年生の時から、「運動会を創りたい」と言っていた子どもたちです。すぐに、「やります」「やりたいです」と大きな声が返ってきました。ですが、中には「心配」「大変だからやりたくない」という想いを口にする子もいました。「運動会を自分たちで創る」という雰囲気の中で、消極的な想いを正直に口に出せる子がいることに驚きました。また、周りの子どもたちがそのような発言を否定せずに最後まで聴き、受け止める姿にも感動したことを覚えています。そして、最終的に「大変だけれど、自分たちが運動会を創っていく」という子どもたちの覚悟を受け取ることができました。

この日を境にして、6年生は忙しくなりました。普段の学習に加え、全校種目、学年種目、低中高別の種目とダンスなどをグループごとに考えていきます。ただ内容を考えるだけではなく、その学年の子どもたちへどのように伝えるのかということも考えていかななくてはなりません。一度考えた内容でも、その学年に合っていなかったり、競技が安全にできなかったりするようであれば、最初から考え直すこととなります。そのため各学年の先生方へ相談をしたり、6年生の友だちに試しに取り組んでもらいながら意見を聞いたりしています。運動会はそれだけではありません。テーマを決めて朝会で伝えたり、マスコットを募集し決定をしたりするなど細々したことがあります。それらのことと並行して、応援団やリレーの練習が入っていきます。

今年の5月は、暑い日が続いたと思っていたら、急に気温が下がり肌寒く感じられる日もありました。この気温差によって体調を崩す子もいるのではないかと心配をしたほどです。ですが、運動会への前向きな思いが勝っていたようです。6年生の誰もが晴れやかな顔をしています。一つのことに向かって一生懸命に取り組んでいる姿は、本当に輝いて見えます。

この「6年生が運動会を創る」という取組は、令和2年度から始まっています。いろいろな活動が制限される中で、「コロナで失われた生活は、自分達の手で取り戻していく」という思いからスタートしていると聞いています。その取組が何年も引き継がれているのです。

「6年生が運動会を創る」ということは、どの学校でも取り組んでいるわけではありません。子どもたちの思いを実現させるためには、陰で支える教職員も様々な準備と多くの時間を必要とします。教職員にとって、6年生一人ひとりが成長し輝く姿を観られることは、その苦勞よりも勝っているのだと思います。そして、その6年生の姿を観て、下級生が6年生へ「憧れ」を抱くようになります。そのようなことが繰り返されているから、何年も引き継がれていると考えています。

明日の運動会、自分たちの競技以上に他学年の運動会の運営に力をいれている6年生の姿もご覧いただけると嬉しいです。

校長 山川 佳美